様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	現代教育課題総合コース ／田村　和之

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され，教員の研究費配分も厳しくなってきており，教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで，科研費申請に向けて，あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1．目標・計画

最近注目が集まっている環境教育の分野（防災教育、自然エネルギー等）において、研究がまだ不十分な領域を見つけ出し、特にクロスカリキュラム的な環境教育の重要性とそのような教育を行える教員の養成について情報を収集し、研究を進めていく。

2．点検・評価

環境教育は様々な分野で研究や活動が行われているが、教育大学における環境教育の取り組みは以外と研究が進んでいないことが分かった。特に、「地域資源を利用した環境教育」というものが現在注目されているので、今後、このテーマを中心に研究を進めて行きたいと考えている。

Ⅰ－2．大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で，あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか，具体的に示してほしい。

1．目標・計画

学会、シンポジウム等に出席した時や、他の大学に出張等に行く時に鳴門教育大学の代表として、学生や大学院に興味のある人に鳴門教育大学の魅力を伝えていくよう努力していく。

2．点検・評価

京都・環境教育ミーティングに参加した時に様々な参加者に鳴門教育大学大学院のことを紹介、簡単に説明を行った。
また、他大学で教員をしている友人にも鳴門教育大学大学院、特に長期履修制度のことを説明し、もし興味のある学生がいれば、鳴門教育大学大学院を紹介するように頼んだ。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

1、昨年度の授業の反省点を踏まえて、より学生にとって有意義な授業になるように内容を改善していく。
2、オフィスアワー等を設置し、学生が気軽に立ち寄り、授業や私生活に関して気軽に相談できるような雰囲気を作っていく。
3、ゼミの学生の指導をしっかりと行い、可能ならば学会等での発表等の機会があるように指導していく。
4、ゼミ所属の学生だけでなく、他の学生も相談に来やすいような環境を作るように努力する。

2. 点検・評価

1、後期の授業では学生中心の授業（発表＆討論）を行った。学生からの感想では「視野が広がった」等があり、目標を達成できたと考える。
2、廊下ですれ違った時や授業前後に積極的に声をかけ、学生の方から気軽に相談できる雰囲気を作ることができた。
3、中間報告の通り、学生が学会発表（JUSTC:日米教員養成協議会（注：中間報告では誤字。失礼しました。））を行い、現M1の学生も無事に研究トピックの決定を行った。
4、他ゼミ、他コースの学生との交流を持ち、彼らも気軽に話をしたり相談に来てくれるようになった。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

昨年より始めた環境教育の分野において、防災教育、自然エネルギー、幼少時期からの環境教育が現在特に注目を集めているトピックであるのが分かった。そのことを踏まえ、まだ十分に研究が行われていない分野や、学校教育にどのように環境教育をより浸透させられるかを研究していきたい。

2. 点検・評価

現在の環境教育の分野では教員養成大学における環境教育の取り扱いかたについて一般からの興味は強いものの、実際の事例が少ないことがよくわかった。今後は教員養成の立場からの環境教育の研究を見直していきたい。
また、宮下先生を代表とする学長最良経費のプロジェクトである「鳴門海峡の特徴的な自然環境を積極的に活用するための総合的研究」に環境教育の分野で参加。
先日京都で行われた「京都・環境教育ミーティング」で研究の途中経過を発表し、聴講者から高評価を受けた。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

担当している委員会の委員として責務をしっかりと遂行する。また、もし他の先生方が出張等で委員会に出席できないときは進んで代理となり大学の運営に参加する。
コース内で担当することとなる仕事等をしっかりと遂行する。

2．点検・評価

学部教務委員会、そして附属図書館運営委員会としてしっかりと責務をこなすことができた。
また、12月に行われた教職員を対象とした異文化コミュニケーション研修では講師として参加。活動や事例紹介を行い、参加者からも「面白かった」という高評価を得た。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

昨年度に続き、附属小学校での英語活動や理科の授業に参加し、小学校の先生方と協力して活動していきたい。
また、鳴門市や徳島市などの地域とも要請があればできるだけ協力して活動していきたい。

2．点検・評価

徳島で行われている社会文化研究会（あわわ会長、徳島新聞記者、その他徳島地域企業・NGO等の社長・会長・理事等が参加）に参加して様々な人と意見交換や交流を深めることができた。

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）